

ふくおかのふくし 149号

Jan.2015

Welfare of Fukuoka



歳末たすけあい餅つきの様子(太宰府市)

今号の内容

- 特集 「岐路に立つ社会福祉法人の在り方を考える」 p 1
- 約700点の福祉用具を展示(介護実習・普及センター) p 3
- 第14回福岡県ねりんスポーツ・文化祭 報告 p 4
- 共同募金活用事例紹介など p 5
- 市区町村社協 地域担当職員研修 報告 p 6
- 社会福祉法人の社会貢献活動 p 7
- ふくふくニュース p 9



じぶんの町を良くするしくみ

赤い羽根共同募金

この広報誌は、一部共同募金の
配分金を受けて発行しています。

岐路に立つ社会福祉法人の在り方を考える

社会福祉法人制度の在り方が問われています。我が国の社会情勢の変化に伴い、福祉サービスの供給の拡大とともに、社会福祉法人（以下「社福」）も増加してきました。その間、福祉サービスの利用者は多様化してきました。

平成12年からの社会福祉基礎構造改革のもと、社福には、措置制度から利用契約制度への変更、利用者のニーズに応じたサービスの提供や事業展開、自主的なサービスの質の向上、経営の効率化・安定化といった、措置制度の下で行われていたような施設管理にはない、法人経営やガバナンスという視点をより強く求められることとなりました。

福祉サービス提供主体も多様化しており、介護・保育事業等においては、他の経営主体との公平性（イコールフットイング）について問われています。制度で区別され、補助金や税制優遇措置を受けている社福は、収益を地域還元することなく、内部留保として無為に積み上げているのではないかと、いったん厳しい指摘もあります。

また、生活困窮者の問題等、制度によるサービスだけでは対応できない課題が社会問題化している中、社福は、これらの課題に十分に対応できていないという指摘もあります。

このようなことを背景に、平成26年7月4日、厚生労働省に設置された「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」が、「社会福祉法人制度の見直しについて（報告書）」をまとめました。

報告書では、社福の課題や問題点について、「地域における公益的な活動の推進」、「法人組織の体制強化」、「法人の規模拡大・協働化」、「法人運営の透明性の確保」、「法人の監督の見直し」という5つの論点で整理し、方向性を示しています。以下、概要を示します。

地域における公益的な活動の推進

- 全ての社福において実施される必要があるため、**法律上、実施義務を明記**する。
- 既存事業との関係について、社会福祉法で整理するとともに、既に実施している社会福祉事業が疎かにならないよう環境を整備する。
- 法人単独だけでなく、複数法人による活動や地域のボランティア、NPO等の支援も含めて公益的活動に取り組む。
- 資金使途の弾力化や寄付等の独自財源の確保を推進する。
- 公益的な活動を実施しない法人については行政指導の対象とする。

法人組織の体制強化

- 理事会に対する牽制機能として、**全ての社福に評議員会を設置**する。
- 一定規模以上の法人には、理事会の下に法人本部事務局を設置する。
- 法人運営に関する理事の損害賠償責任、特別背任罪の適用等を検討する。
- 理事等に法人の実施する社会福祉事業の内容を熟知する職員からの登用を一定割合義務付ける。
- 監事要件として、社会福祉法人制度等を理解した者で、かつ財務諸表を確認できる者とする。
- 法人の規模に応じて経営委員会、執行役員会の活用等、理事長の権限を補佐する仕組みを設ける。

法人の規模拡大・協働化

- 社福の合併・事業譲渡が公正に行われるよう、要件や手続の見直しを検討する。

- 経営者については、他法人の理事を兼務できるように、必要な規制緩和を検討する。
- 剰余金を、社会福祉事業や地方公共団体が認定する事業に拠出できるよう、規制緩和する。
- 複数の非営利法人が社団型の社福を設立できる仕組みを検討する。
- 複数法人の連携・協働を進めるため社会福祉施設職員等退職手当共済制度を活用する。

法人運営の透明性の確保

- 法人運営の透明性を確保するため、**全ての社福の財務諸表等（平成25年度決算分以降）の公表**については、**法律上の義務**とする。
- 剰余金は、目的を持った積立金とし、法人が利用者や地域住民等に説明責任を果たす。
- 定款・役員報酬規程等の公表や法人の理念や事業、公益的な活動についてもわかりやすく公表する。

法人の監督の見直し

- 法人監査、施設監査、第三者評価、介護サービス情報の公表制度等、それぞれの役割を明確にするとともに、実施方法の配慮等工夫する。
- 法人監査については、運営状況に係る監査と財務に係る監査を峻別し、財務に係る監査については、外部監査の活用を積極的に図る等の見直しを検討する。
- 福祉への実績あるいは関心・理解のある者が参入できる仕組みとなるよう法人の設立認可の要件を見直す。
- 一定の規模以上の社会福祉法人については、**公認会計士等の専門家による外部監査を義務化**する。
- 第三者評価の受審結果については、利用者等が見られるよう、事業所の玄関に掲示することや、各法人の受審状況を都道府県単位で一覧できる仕組みを検討する。

厚生官僚が語る社福の在り方

報告書の内容を踏まえ、福岡県社会福祉法人経営者協議会（事務局は本会内）では、厚生労働省から熊本県に向向中の山田 章平 長寿社会局長、和歌山県に向向中の宮腰 奏子 障害者福祉課長、平成26年8月まで兵庫県に向向されていた厚生労働省 伊澤 知法 原子爆弾被爆者援護対策室長をお招きし、「平成26年度 第2回社会福祉法人経営者セミナー」を11月28日に福岡市博多区で開催しました。

セミナーでは、地方に向向しているからこそ分ける社福の可能性、必要性等を踏まえ、義務化される社会貢献や社福の在り方についてのヒントをお話しいただきました。

山田局長には、『社福の地域貢献に期待すること』と題し、社福制度の概要や社福全体を取り巻く現状と今後の社福制度の改革に向けた方向性に加え、熊本県での取り組みについて講義いただきました。

社福の課税を巡る問題では、「現在、社福は法人税、固定資産税が非課税となっているが、その目的と理由は異なっている。法人税は、収益に対して税率をかけるものだが、社福が制度としてできたときに、担税力（税を担う力）がないと判断された結果、非課税となっているものであり、社福が利益の出る仕組みで、役員報酬が高額だったり、余裕財産があったりすれば、課税の話につながる。

一方、固定資産税が非課税な理由は、その事業が半永久的に続いてほしいから。だからこそ減免が認められている法人は、2種類（社福と学校法人）のみとなっている。もし、法人税が課税になった場合は、固定資産税の課税につながる可能性がある。稼働などと言わないが、社福は非課税の大前提として担税力がないから法人税が免税されているのであり、使い道のないお金は貯められない。だからこそ、余

裕財産については、地域公益活動の実施や、従業員の処遇改善・人材確保などに使い切る必要がある。」と説明されました。

また、地域公益活動については、「社会福祉事業を行っていることをまずは誇りに持ち、事業をしつかりとやった上で、併せて地域公益活動に取り組む必要がある。財政当局は地域貢献等を社福に求めている訳でなく、むしろ課税したいと考えている。既に、多くの社福が地域公益活動を行っているが、それが個々の取り組みとなり、住民等に広く知られていないのでは意味がなく、社福全体の活動として、見える活動が必要。制度ができるほど狭間は生まれるのであり、それを埋めるのは社福の得意分野のはず。利益を求めない事業を新たに始められるのは、株式会社等にはできない社福の特権であり、ぜひ、皆さんがやりたいことを、自由にやってほしい。

また、今日来られている自治体の方々は、社福の自主性や先駆性を尊重しながら活動を応援してほしい。」と熱いエールを送っていただきました。



厚生労働省 原子爆弾被爆者
援護対策室長 伊澤 知法 氏



和歌山県障害者福祉課長
宮腰 奏子 氏



熊本県長寿社会局長
山田 章平 氏

問われる社福の存在意義

シンポジウムでは、宮腰課長から「和歌山県では、何かを頼むときに、法人格を意識したことはない。あの地域だったらこの社福かな、あのNPOかな」と困っている時に助けてくれる人が誰なのかをまずは意識する。社福は困っている人を助ける存在であり、それがやりたいからこそ、皆さんは社福の法人格を取ったはず。何か地域課題が生まれたときに、あそこの社福に相談すれば何とかなると、全ての社福がそれぞれが、必要なのではないか。」と話されました。

山田局長からは「社福という、古くて保守的で制度にがんじがらめというイメージの人もいるが、熊本に来てみると、今でも社福が先駆的な取り組みをメインで行っているというイメージ。社福を知ってもらい、イメージを変えていくことも大事。」と指摘されました。

伊澤室長からは「平成12年の介護保険法制定時、特に介護事業を行う社福には、介護保険の収入をうまく使って、地域の様々な課題を解決してほしい」というメッセージが出ていたが、それが14年間で中途半端な状況になってしまったために、今、義務化の話が出ている。社福の存在意義を発揮するためにも、まずは自分たちの事業の延長線上にある課題に目を向けてほしい。事業を行う際に、介護保険で算定されるかどうかがあるものではなく、そこにいる人のニーズがあるのかどうかを、社福が行う事業の判断基準にしてほしい。」と話されました。

約700点の福祉用具を展示

くろーばープラザ（春日市）

福祉用具は、高齢者の自立を助け、介護者の負担を軽減する上で大変有効です。

本会介護実習・普及センター（以下「センター」）では、福岡県の委託を受け、春日市のクローバープラザ東棟2階で、約700点の福祉用具の展示を行っています。



ポータブルトイレ



シャワーチェア



見学者への説明の様子

見て、触れて、試すことが重要
くより良い福祉用具を
見つけるコツ

専門相談員が常駐して、福祉用具の選定や使い方、取り扱っている店舗のご案内など福祉用具に関する相談や介護に関する相談もお受けしています。

また、最新福祉用具コーナーや腰痛予防コーナーなどの目的別コーナーを設け、3か月ごとに内容等を変えて、見学者の方に福祉用具の最新動向などをお伝えしています。

今月（平成27年1月）から全国や西日本国際福祉機器展に出展された

平成26年度福祉用具展示室 目的別コーナーの設置

- 4～6月
「車いす、シルバーカー、シニアカー体験」
- 7～9月
「新しい介護のカタチ～介護ロボ機器」
- 10～12月
「腰痛予防～入浴編～」
- 1～3月
「最新福祉用具の展示」

最新の福祉用具の特集コーナーを設置しています。
クローバープラザにお越しの際は、ぜひ、2階福祉用具展示室にお越しください。

**皆さんの身近な施設で
介護技術や福祉用具を体験！**
(出前講座)

本センターでは、県民の皆さんの身近にある地域の社会福祉施設を拠点とし、介護の知識・技術や福祉用具の展示を体験できる取組みを広めるために、11月12日（水）に八女市の特別養護老人ホーム八女の里、11月21日（金）に宗像市の特別養護老人ホームむなかたで、それぞれ出前講座「認知症について考えるつどい」を開催しました。
受講者は、認知症サポーターとし



出前講座「特別養護老人ホームむなかた」

て、地域の認知症の方やそのご家族がどのような戸惑いながら暮らしているのかを学んだり、認知症と思われる方が道に迷って帰れなくなった時の声かけや対応の仕方について具体的に学びました。

また、施設での介護技術を見学し、腰痛予防につながるリフトやベッド、介護ロボットと言われる自動排泄処理装置や尿吸引ロボ等の使い方や利用料金等について詳しく説明を受けました。



出前講座「特別養護老人ホーム八女の里」

受講者からは、「施設での介護が体験できて本当に良かった。家族の介護や自分の老後の不安が少し和らいだ」「介護の悩みを改善するための新しい福祉用具が様々あり、家族の介護に役立てていきたいと思った」などの声が寄せられました。

「問い合わせ先」

福岡県介護実習・普及センター
(福岡県社会福祉協議会)

介護実習課)

☎ 092-5584-3331

はつらつと輝く

第14回福岡県ねんりんスポーツ文化祭 メーンイベント開催

スポーツや文化活動を通じて、高齢者の生きがいづくり、健康づくりを支援するために福岡県では「ねんりんスポーツ・文化祭」を開催しており、世代を超えた交流の輪を着実に広げています。

14回目となる今大会のメインイベントを去る平成26年11月8日（土）に糟屋郡新宮町のそびあしんぐうで開催しました。

●合唱フェスティバル

高齢者を中心とした6つの合唱団がそれぞれに素晴らしい歌声を披露され、最後に、子どもコーラスララ&リトルチュチュを交えて出演者全員で「ふるさと」を歌いました。合唱の楽しさや出演された皆さんの元気が存分に伝わってくる合唱フェスティバルとなりました。



記念講演のあき竹城さん

●式典・記念講演

小川 弘毅 実行委員長（福岡県社会福祉協議会長）が開式の辞を述べ、主催者代表として大会会長 小川 洋 福岡県知事がはつらつとした長寿社会づくりについて力強く挨拶されました。

記念講演では、女優の あき竹城さんに「キラキラ輝く人生のために」と題して、いつまでもワクワクして過ごすことの大切さやそのための心の持ち方を、元気よくユーモアを交えて話していただきました。会場は笑いに包まれながらも、来場された皆さんの真剣な眼差しが印象的でした。

●世代間交流イベント

「おじいちゃん・おばあちゃんの絵」コンクールでは、県内の小学校から5,244点の応募があり、その中から入賞作品60点をメインイベント会場に展示しました。大好きな「おじいちゃん・おばあちゃん」が描かれた作品に、多くの親子連れや「おじいちゃん・おばあちゃん」とお孫さんがお越しになり、展示作品を鑑賞しながら語り合う姿が見られました。

また、朗読の素晴らしさや楽しみを共有することを目的とした「みんなで楽しむはじめての朗読会」では、子どもからシニアまで多くの世代と一緒に本の楽しさを味わうことができました。



おじいちゃん・おばあちゃんの絵 作品展示
力作揃いの絵に皆さん見入っていました

●地域・文化交流イベント

新宮町老人クラブ連合会や久山町老人クラブわら細工グループによる「地域文化伝承コーナー」、ボランティア団体ひなたぼっこによる「絵手紙体験コーナー」では、協力いただいた皆さんが竹細工やしめ縄、絵手紙等の制作をいきいきと実演され、その手際の良さや完成品の出来栄に多くの方がコーナーの前で足を止めて見入っていました。

「ふれあい市場」では、県内の障害者施設、地域の団体や企業等に協力をいただき、障害者がつくるまごころ製品や地元の名産品を使用したグルメ等を販売しました。お目当ての品を買い求める来場者の行列ができるなど大盛況で、昼食を食べながらご家族や友達同士で談笑する姿で休憩用のテントが賑わいました。



地域文化伝承コーナーでは子どもから大人まで和気あいあいと楽しみました
(参加者と交流される小川知事)

また、健康福祉コーナーでは、世代を問わず終日行列ができ、来場者が健康づくりの重要性を再認識できました。スポーツ・レクリエーション体験コーナーでは、子どもから大人まで元気に楽しみながら気軽に身体を動かし、70歳現役応援センター出張相談会にも多くの方々が参加されました。

福岡県ねんりんスポーツ・文化祭のメインイベントや各種交流大会、合唱フェスティバル等が契機となり、日頃から多くの方々との交流を深めながら、生きがいづくりや健康づくりを実践する「はつらつと輝く」シニアの方がますます増えていくことを願っています。

共同募金は地域の高齢者の食生活や健康づくりに一役買っています！

現在、高齢者のおかれる環境・状況はさまざまです。家族構成をみると、ひとり暮らしや高齢者のみの世帯であったり、健康面では、糖尿病・高血圧をはじめ持病を抱えたりする方も多くなります。また、高齢になればなるほど、買物が難しくなったり料理をすることも大変になったりと、日々の食事は、どんどん億劫なものになりがちです。

しかし、美味しい食事によって楽しく幸せな気持ちになるのは、誰もが同じこと。それを大切にし、楽しい食事を通して、高齢者の食生活の見直しや健康相談、地域の皆さんとの交流の機会を提供しているのが、大野城市食生活改善推進会です。



交流会の様子

推進会では、毎年、各地区の公民館で、高齢者を対象に「ふれあい交流会」を開催。推進員さんが腕をふるい、地域の高齢者を招待し、皆で一緒に食事をしながら、交流を深めています。

食事会の前には、食事や栄養に関する講話の時間を設けたり、血圧測定や健康相談などを実施する地区もあります。

推進会の高田恵子会長によると、参加されている方々は、皆さん毎回交流会を楽しみにされていていらつしやるそうで、各地区とも毎回大盛況とのこと。地区によっては総勢100人を超えるところもあり、一緒に食事をしながら、食事に関することから、世間話、悩み事など、色々な会話が飛び交っているようです。

推進員は、大野城市内で500人を超え、その半数以上がこのふれあい交流会で活躍されています。推進会の活動は、昭和56年に老人クラブとの交流会として始まり、現在は市内約20か所の公民館で交流会を開催。実に約40年にも渡り、食事を通した交流会の開催を継続されています。

そして、各地域の自治会、民生委員・児童委員、大野城市など地域の様々な団体等が連携。大野城市の健康推進課の小野春奈さん（管理栄養士）がしっかりと推進員さんの相談にのり、活動を支えています。

楽しく美味しい食事の時間をきっかけに、高齢者の見守りを続けられている推進会。今後も活躍が期待されます。

お寄せいただいた共同募金は、このように地域のさまざまな活動に活用されています。

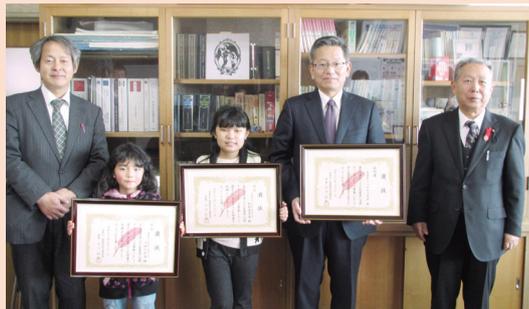


大野城市食生活改善推進会 会長 高田 恵子 氏 (左)
大野城市福祉高齢部健康推進課 管理栄養士 小野 春奈 氏 (右)

【問い合わせ先】

福岡県共同募金会
092-584-3388

入選、おめでとうございます！



左から 筑前町立中牟田小学校 西嶋 寛 教諭
川崎 千彩音さん（1年生）
板垣 摩里愛さん（5年生）
井手 一彦 校長
共同募金会筑前町支会 原口 眞治 会長

※写真は中牟田小学校の皆さん
ご協力いただいた児童・生徒の皆さん、学校関係者の方々、ありがとうございました。

福岡県共同募金会では、赤い羽根キャッチフレーズに入選された方と多数の作品を応募いただいた学校を訪問し、所在市町村支会の代表者から表彰状を授与されました。今回訪問したのは、
八幡中央高等学校（北九州市）
八幡高校（北九州市）
宮竹中学校（福岡市）
友泉中学校（福岡市）
朝倉東小学校（朝倉市）
中牟田小学校（筑前町）

平成26年度
赤い羽根キャッチフレーズ
表彰式を開催しました

コミュニティワークの記録は、組織全体で活用

平成26年度 市区町村社協 地域担当職員研修会を開催

本会では、去る平成26年10月29日（水）にクローバープラザ（春日市）で社会福祉協議会（以下、「社協」）の職員を対象に、「平成26年度市区町村社協地域担当職員研修会」社協コミュニティワークの実践力を高めるための「記録」と「事例検討」を開催し、30市区町村社協48名の参加がありました。

藤井氏は、「コミュニティワークの記録は、ただ行ったことだけを記録するのではなく、ワーカーの思いや気づきを記録し、自己分析を行うことが大切です。それを事例検討を通して組織全体で共有・分析することで、ワーカー個人だけでなく、組織として継続的な支援を行うことができます。」と記録や事例検討の重要性について話されました。

記録を定着させる要点

- ① 記録を業務管理の視点だけでなく、実践の質を高める視点を重視して整備すること
- ② 記録の継続性が図られるよう、なるべく短時間で記録できる様式になっていること
- ③ シートの項目は、目的、仮説、評価を考えられる項目様式になっていること
- ④ 事例検討シートに活用できること
- ⑤ 記録業務が事例検討会などのOJTやスーパービジョンに活用される業務構造の一環として位置づけられていること



神戸学院大学
教授 藤井 博志 氏

研修会では、神戸学院大学教授藤井博志氏を講師にお招きし、社協職員がコミュニティワークの記録や事例検討の重要性を学び、個々のスキルアップのみならず、社協組織としての実践を蓄積し、地域福祉推進を中核的に担う力を高めるために必要な知識や技術について、講義・演習を行いました。

平成26年度 みんなが主役の元気な地域づくりセミナー

本セミナーは、地域が抱える問題や地域のつながりづくりの大切さについて、地域住民、ボランティア活動者、専門職などの参加者が一緒に考え、官民一体となった住民主体の元気な地域づくりを進めることを目的に開催します。

○日時 平成27年 2月23日(月) 10:30~15:30(受付 9:30から)

○会場 福岡国際会議場 2階 多目的ホール (福岡市博多区石城町2-1)

○講演 10:45~12:15

演題 「つながり、支え合う、元気な地域づくりのススメ」

講師 日本福祉大学 社会福祉学部長 社会福祉学科 教授 児玉 善郎 氏

○パネルディスカッション 13:50~15:30

パネリスト

大牟田市社会福祉協議会 蔵森 久美子 氏

糸島空き家プロジェクト 宇都宮 明翔 氏(九州大学大学院 人間環境学府 修士2年)

コーディネーター

日本福祉大学 社会福祉学部長 社会福祉学科 教授 児玉 善郎 氏

参加費
無料

- ◆会場で障害者が作ったまごころ製品を販売!
- ◆楽しいレクリエーションの実践もあります!

【問い合わせ先】 福岡県社会福祉協議会 地域課

TEL 092-584-3377

FAX 092-584-3369

ホームページ <http://www.fsw.or.jp/>

地域の声に耳を傾け、ニーズを拾いあげることが社会貢献の第二步

社会福祉法人宗像福祉会の取り組み

地域の要望からはじまった
障害のある子どもたちの
居場所づくり

社会福祉法人宗像福祉会(宗像市)では、平成26年7月から社会貢献活動の一環として、毎月第一金曜日に施設の多目的ホールを提供して、地域の障害のある子どもたちのふれあいの場づくりに取り組んでいます。

当初15名だった参加者は、6回目を迎える現在、ロコミ等の効果もあり、きょうだい児、職員の子ども達、保護者を含め40名を超える参加者が集まるようになりました。

プログラムは、紙芝居やダンス、ボールを使った運動の他に七夕やスイカ割り、ミニ運動会、クリスマス会等、季節ごとのイベントを取り入



地域に開放した多目的ホール

れ、参加者が飽きずに、楽しく続けられるよう工夫されています。また、子ども達にとっては、両親以外の人と接することで、たくさんの方の学ぶ療育の場になります。さらに、保護者にとっては、ママ友同士の交流やストレスの軽減・育児相談等に繋がっています。

もちろん施設側としても社会貢献活動とはいえず、活動を継続するにあたり、運営に係る職員の勤務を調整し、負担にならないよう配慮しているとのこと。当初は子ども達への対応に戸惑っていた職員も、保護者の意見を聞きながらホール内のリスク排除を行い、子ども達が安全にのびのびと遊べるよう対応しているそうです。

利用している保護者からは、「色々なイベントを考えてくれるので、親子で毎回来しみにしている。」「広い室内なので、子ども達が走り回っても車の心配がいらないので助かる。」「スタッフの方がよく子どもを見てくれているので、安心。」「ゆっくりできる時間ができ、親同士で育児相談もできるので、いい気分転換になっている。」「との声があり、保護者のレスパイトの場としても欠かせない場となっています。」

障害を持つ子の親の声がきっかけに

この取り組みのリーダーとして運営に携わる理学療法士の高原 克之さんは、自身が行っているフットサルスクールで、障害をもつ未就学児の子ども達を教えた際にある保護者の方が「子どもを可愛いと思えない」と呟かれた一言が忘れられないといいます。遊ばせる時はきまつて、雨上がりの誰もいない公園で遊ばせ、気軽に相談できる人もいないという現状から、お母さん方には息抜きをして優しさを取り戻してもらいたい。場が必要だと感じたそうです。また、週1回未就学児の子ども達にフットサルを教えています。グラウンドの確保が難しく、外での活動は、子ども達が急に車道に飛び出してしま



理学療法士の高原 克之さん

まう等、危険を伴うこともあり、安心して活動できる場がありませんでした。そこで施設の空いたスペースで何かできないかと考えたこの事業

が始まったそうです。今後は、障害がある子もいない子も一緒に活動し、子ども達の頃から関わり合い交友関係を広げること、たくさんの経験をし、親友ではなく「真友」ができるよう、誰でも気軽に参加できる環境づくりを目指し、ゆくゆくは、開催回数を増やし、施設利用者との交流にも広げていきたいとお話しいたしました。



毎回イベントを企画しています。

地域交流活動を通して、真に地域から必要とされる施設づくり、社会貢献に取り組む、共生社会の実現を目指していくことが、これからの社会福祉法人には求められています。

【問い合わせ先】

福岡県社会福祉協議会 施設課
092-584-3377



社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン 1 施設業務の補償

(賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

① 基本補償(賠償・見舞)

保険期間1年職種級別A級

▶補償金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故に対応	対人賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	対物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金補償限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等の各種費用	初期対応費用(期間中)	500万円	500万円
	事故初期見舞費用(1名につき)	死亡10万円 後遺障害0.3~10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)	死亡10万円 後遺障害0.3~10万円 入院時3万円 通院時1万円 (1事故で10万円限度)
	利用者傷害死亡事故弔慰金		死亡(重度後遺障害) 100万円(78~100万円)
	利用者傷害事故見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

▶年額保険料(掛金)

定員	基本補償(A型)
1~50名	35,000~61,460円
51~100名	68,270~97,000円
以降1名~10名増ごと	1,500円

基本補償(A型) 保険料	+	【見舞費用加算】 定員1名あたり 入所:1,300円 通所:1,390円
--------------	---	---

- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ● 施設の医療事故補償
- ② 個人情報漏えい対応補償
- ③ 施設の什器・備品損害補償

プラン 2 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

① 入所型施設利用者の傷害事故補償

② 通所型施設利用者の傷害事故補償

(10口まで加入できます)

保険期間1年職種級別A級

▶補償金額	1口あたりの補償額
死亡保険金	100万円
後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の4~100%
入院保険金(1日あたり)	800円
手術保険金	入院中の手術:入院保険金日額の10倍 外来の手術:入院保険金日額の5倍
通院保険金(1日あたり)	500円

▶年額保険料(掛金)	定員1人1口あたり
①入所型施設利用者	1,310円
②通所型施設利用者	990円

- ③ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償
施設送迎車に搭乗中のケガに対し、プラン2-①、②の傷害保険や自動車保険などとは関係なく補償

プラン 3 施設職員の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

② 施設職員の傷害事故補償

(10口まで加入できます)

保険期間1年職種級別A級

▶補償金額	1口あたりの補償額
死亡保険金	140万円
後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の4~100%
入院保険金(1日あたり)	1,500円
手術保険金	入院中の手術:入院保険金日額の10倍 外来の手術:入院保険金日額の5倍
通院保険金(1日あたり)	600円

▶年額保険料(掛金)	定員1人1口あたり
施設役員・職員の1名1口あたり	3円(1日あたり) 780円(年間:週5日勤務の場合)

- ① 施設職員の労災上乗せ補償
- ③ 施設職員の感染症罹患事故補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記までお願いします。●

社会福祉法人
全国社会福祉協議会
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン
TEL:03(3593)6433

株式会社 **福祉保険サービス**
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

(SJ13-12122 2014.2.13作成)

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。
日本興亜損保と損保ジャパンは、関係当局の認可等を前提として、平成26年9月1日に合併し、「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」になります。

たくさんのご協力に感謝！～歳末たすけあい運動 街頭募金を実施～



12月1日から12月31日まで、「みんなでささえあう あったかい地域づくり」をスローガンに、全国一斉に歳末たすけあい運動が実施されました。

福岡県共同募金会では、運動初日にボランティアの皆さんと一緒に福岡市内で街頭募金を実施し、1時間程の取り組みで県民の皆様から86,266円の募金をいただきました。

運動期間中に皆様から寄せられた募金は、お正月を自宅で迎えるひとり暮らしの高齢者におせち料理やお餅を届ける活動や、福祉施設で暮らす子どもたちの進学や就職のための支援金など、県内の様々な地域福祉活動に活用させていただきました。ご協力ありがとうございました。

日本初！『社会貢献型文房具』の初納品～三菱鉛筆と共同で働く障害者を支援～

福岡県セルフセンター（以下「センター」）では、三菱鉛筆九州販売株式会社との共同企画で、「購入が障害者の工賃向上につながる文房具」の取り扱い平成26年11月から開始しました。

これは、センターを通じて三菱鉛筆の商品を注文すると、作業の一部（袋詰め・箱詰め等）が障害者福祉施設に発注される『社会貢献型文房具』となり、障害者の収入向上につながる日本初の取り組みです。

平成25年4月1日施行の障害者優先調達推進法により、官公庁等は、調達目標を示したうえで障害者就労施設等からの物品等の調達を進めており、早速多くのお問い合わせをいただいています。

初納品となった11月25日には、センターの辻 譲治 副会長と作業を担当した障害者支援施設「希望舎」の利用者の皆さんが水巻町役場を訪問し、美浦 喜明 水巻町長（写真中央）、水巻町障がい者施策審議会加賀 敦子 会長（写真右から2番目）等に直接商品をお届け、その様子はテレビや新聞でも報道されました。

名入れ等にも対応し、企業等の注文も受け付けています。詳しくは、下記事務局にお問い合わせください。



【問い合わせ先】福岡県セルフセンター事務局（福岡県社会福祉協議会 施設課内） ☎ 092-584-3377

NTTドコモ九州支社様から本会にご寄付をいただきました！



株式会社NTTドコモ九州支社様、NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド様から本会にご寄付をいただきました。

去る11月11日の贈呈式では、株式会社NTTドコモ九州支社 企画総務部長 森山 幸一 様（写真右から2番目）から目録を贈呈いただきました。

ご寄付は平成13年から継続いただいております、今回で14回目です。お寄せいただいた浄財は、県内の子育てサロン活動や子育て支援事業等、次世代を担う若い世代のために活用させていただきます。

皆様ありがとうございました。

福岡トヨペット様から県内30施設に車いすを寄贈いただきました！

福岡トヨペット株式会社様では、今年度も県内の高齢者福祉施設・障害者福祉施設30カ所にそれぞれ1台ずつ車いすを寄贈されました。

同社は平成19年から今回までに326台の車いす寄贈を続けてこられました。

寄贈を受けた施設からは多くの感謝の声が寄せられているそうです。

福岡トヨペット株式会社様、ありがとうございました。



※写真は障害者福祉サービス事業所 コミュニティー庄の里での寄贈風景

読売光と愛の事業団西部支部様から母子生活支援施設へ歳末プレゼント！

平成26年12月18日(木)に読売新聞西部本社(福岡市中央区)で社会福祉法人読売光と愛の事業団様から母子生活支援施設の利用者に対する、「歳末プレゼント」の贈呈式が行われました。



本事業は昭和58年から始まり、今年で31年目を迎えます。事業団の上村 克也部長(写真左)は「寄付いただいた善意が広がっていけばとの思いで歳末プレゼントを始めました。クリスマスプレゼントやお年玉に活用いただきたいと考えています。」と述べ、母子生活支援施設 室見寮の広渡 次郎 施設長(写真右)は「経済的に厳しい世帯も多い中、毎年多額の寄付をいただき、感謝申し上げます。いただいた浄財を大切に活用させていただきます。」とお礼の言葉を述べられました。

サービス水準のさらなる向上を目指して、第三者評価を活用しましょう！

平成26年11・12月に福祉サービス第三者評価の結果を公表している社会福祉施設・事業所を公表します。

◇社会的養護関係施設第三者評価 4件

【児童養護施設】 双葉学園、ひばりが丘学園、福岡育児院、久留米天使園

評価結果は、全国社会福祉協議会(全国推進組織)HP <http://www.shakyo-hyouka.net/> または
福岡県福祉サービス第三者評価推進機構HP <http://www.fsw.or.jp/hyoka/top.html> をご覧ください。

●受審の申込み●

- ・福岡県社会福祉士会 TEL 092-483-2944
- ・医療・福祉ネットワークせいわ TEL 0952-41-6522

●事務局・問い合わせ先●

- 福岡県社会福祉協議会 評価・相談課
TEL 092-584-3610

福祉の職場で働く皆さんの福利厚生充実には、ソウェルクラブへの加入を!!

- 対象 社会福祉事業を営む法人内の役職員等
- 掛金 年1万円コース…常勤(非常勤も可)
年5千円コース…非常勤のみ
※金額によりサービスが異なります
- 契約期間 契約成立日から翌年3月31日
※解約の意志がない場合は自動更新されます



会員交流事業

様々なイベントがお得に！

コンサート (H26年度例)

- ・松田聖子 ・藤井フミヤ ・ケツメイシ
- ・DREAMS COME TRUE ・EXILE

観劇 (H26年度例)

- ・博多座大歌舞伎 ・宝塚歌劇団
- ・劇団四季「CATS」
- ・シルクドソレイユ「OVO」
- ・ミュージカル「レディ・ベス」

その他 (H26年度例)

- ・ホテルエステ&ランチ
- ・福岡ソフトバンクホークス観戦
- ・博物館入場券 ・映画鑑賞券

職員のお祝いに

- ・結婚・出産・入学お祝い品贈呈
- ・資格取得記念品贈呈
- ・永年勤続記念品(5年毎)贈呈

職員の健康に

- ・生活習慣病予防検診費助成
- ・健康生活用品の給付
- ・入院・手術・災害見舞金他
- ・指定保養所、ホテル等割引

●加入の申込み・問い合わせ先

福利厚生センター
TEL 0120-292-711
<http://www.sowel.or.jp>

福岡県社会福祉協議会 人材・情報課
TEL 092-584-3330



福祉の
明日は
光ってる☆

福祉のしごと 就職フェア 2015 in FUKUOKA

九州発アイドルグループLinは
福祉で働く人を応援しています

たかき ゆうみ
高木 悠未さん

H27 2月6日 金 会場 クローバープラザ

参加対象 社会福祉施設等への就職希望者及び平成27年3月末の大学・専門学校等の卒業予定者、無資格・未経験の方も可

参加無料 入退場自由 予約不要

就活応援セミナー 11:30~12:30 (受付10:30~)

テーマ 「自分に合う職場の見つけ方」
就職面談会に向け福祉の職場の魅力や自己理解、企業理解、自分に合う職場を見つけるポイントをお話しいただきます。

講師 株式会社リクルートキャリア 門野 友彦氏

就職面談会 13:00~16:00 (受付12:00~)

内容 採用担当者や施設職員と直接面談し、仕事内容、職場の雰囲気、待遇など様々な質問にお答えします。

参加事業所数 福祉関係施設・事業所 165ブース参加予定

会場アクセス



問い合わせ先

福祉分野への就職・相談は福岡県福祉人材センターへ
社会福祉法人 **福岡県社会福祉協議会** (福岡県福祉人材センター)
〒816-0804 福岡県春日市原町3-1-7 クローバープラザ2階
TEL 092-584-3310(直通) FAX 092-584-3319

詳しくはこちら [福岡県福祉人材センター](#) 検索



「福祉・介護事業に関わる人々のための人材採用・育成戦略フォーラム」を開催します

- 日 時：平成27年3月3日(火) 13時から16時30分
- 場 所：クローバープラザ 大ホール(春日市原町3-1-7 JR春日駅前)
- 内 容：基調講演 「採用難の時代の人材募集・採用」

講師：株式会社パルマ s v c 代表取締役社長 藤本 勝典氏
講 演 「事業所の挑戦『逆境からの脱却』～課題に本気で取り組んだ成功事例の紹介～」
講師：HRエージェント 代表取締役 佐藤 康弘氏
福祉・介護人材定着促進事業モデル事業所による成功事例発表、パネルディスカッション 他

受講
無料